

**ホームステイ事業
町に100万円を寄付**
宮坂建設工業

【広尾】宮坂建設工業(帯広)の宮坂寿文社長は24日、首都圏の子どもたちを漁師宅や農家に受け入れる「農山漁村ホームステイ事業」に役立ててと、町に100万円を寄付した。

同社は国道306号の工事を手がけるなど、前身の「宮坂組」の時代から広尾と縁がある。町役場で村瀬優町長に目録を手渡した宮坂社長は「地域創生に向けて応援したい」と話していた。(大能伸悟)



村瀬優町長(左)に目録を手渡す宮坂寿文社長(広尾町提供)

宮坂建設が100万円寄付
広尾町ホームステイ事業に



【広尾】宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)は24日、町の農山漁村ホームステイ事業の費用として100万円を寄付した。

宮坂社長が町役場を訪れ、村瀬優町長に目録を手渡した。同社は国道306号(黄金道路)の道路、トンネル工事を行っている縁があり、寄付した。

農山漁村ホームステイ事業は、都会の子どもを町内の漁家や農家で受け入れ、都市部で広尾のPRを図るもの。

今年度は東京都荒川区立尾久西小学校の5年生60人が8月21～23日に滞在する。寄付金は今年度以降の同事業に使われる。

宮坂社長は「人づくり、まちづくりに役立てていただければ」と話した。

村瀬町長は「寄付金を活用し、広尾が都市部とつながり、まちの活性化につなげたい」と感謝していた。(伊藤亮太)

目録を手渡す宮坂社長(右)と村瀬町長